

略歴・研究教育業績一覧

氏名 永岑三千輝（ながみね みちてる）
生年月日 1946年(昭和21年)1月22日
出生地 中華民国天津
本籍 香川県

学歴

1964年3月 香川県立観音寺第一高等学校卒業
1964年4月 横浜国立大学経済学部入学
1968年3月 同学部卒業（経済学士）・「ドイツ産業革命と金融制度の変革」
1968年4月 東京大学大学院経済学研究科修士課程入学
1971年3月 同課程修了(経済学修士)・「ナチスの農村進出ーシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州の場合ー」
1971年4月 東京大学大学院経済学研究科博士課程進学
1974年3月 同課程 単位取得満期退学

学位

1995年10月 博士(経済学・東京大学)
学位論文『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』（同文館、1994年9月）

職歴・研究教育歴

1973年4月 立正大学経済学部助手
1974年4月 立正大学経済学部専任講師（西洋資本主義発達史）
1975年8月 ドイツ学術交流会（DAAD）留学生（～1976年9月）
1975年8月 立正大学在外研究員（～1977年9月）
1975年10月 ドイツ連邦共和国ボーフム大学留学（～1977年9月）
1978年4月 立正大学経済学部助教授（西洋資本主義発達史）
1985年4月 ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学社会経済史研究所留学（～1986年3月）
1986年4月 立正大学経済学部教授（～1996年3月）
1988年4月 立正大学大学院経済学研究科修士課程・講義・演習担当（西洋経済史）
1990年8月 立正大学石橋湛山基金・在外研修
1993年4月 立正大学在外研究・ドイツ連邦文書館(コブレンツ)(～1993年9月)
1994年4月 立正大学大学院経済学研究科博士課程・講義・演習担当（西洋経済史）
1996年4月 横浜市立大学商学部経済学科教授(外国経済史)

- 1996年4月 横浜市立大学大学院経済学研究科教授・修士課程・講義・演習担当(経済史)
- 1996年8月 横浜市立大学短期海外研修(～9月、ミュンヘン現代史研究所)
- 1997年4月 横浜市立大学大学院経済学研究科教授・博士課程・講義・演習担当(経済史)
- 1998年8月 横浜市立大学短期海外研修(ドイツ連邦文書館ベルリン)
- 2002年8月 横浜市立大学短期海外研修(ミュンヘン現代史研究所・ドイツ連邦文書館コブレンツ)
- 2005年4月 横浜市立大学国際総合科学部教授・国際文化創造コース・講義・演習担当
(ヨーロッパ社会・ナショナリズム論・教養ゼミA)
- 2005年4月 横浜市立大学大学院国際総合科学研究科教授・国際文化研究専攻・博士
前期課程・博士後期課程・講義・演習(ヨーロッパ社会)
- 2009年4月 横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授・講義・演習(欧米社会)
- 2011年3月 定年退職

その他職歴

- 1975年4月 横浜国立大学経済学部講師(兼任)(～同年7月)・西洋経済史特殊講義担当
- 1988年10月 東京都立大学経済学部講師(兼任)・西洋経済史担当(～1989年3月)
- 1990年4月 横浜国立大学経済学部講師(兼任)(～同年10月)・西洋経済史特殊講義担当
- 1990年4月 成城大学経済学部講師(兼任)・現代史担当(～1991年3月)
- 1991年4月 跡見学園女子大学文学部講師(兼任)(～1993年3月)
- 1991年10月 日本女子大学家政学部講師(兼任)・経済史(～1992年3月)
- 1994年4月 跡見学園女子大学文学部講師(兼任)(～1996年3月)
- 1996年4月 立正大学大学院経済学研究科講師・西洋経済史演習(～2004年3月)
- 1997年4月 立正大学大学院文学研究科講師・西洋史特別講義(～2004年3月)
- 1997年10月 東京大学大学院経済学研究科講師(兼任)・経済政策特論(第三帝国の
国家と経済)担当(～1998年3月)
- 2000年4月 横浜国立大学経済学部講師(兼任)・経済史担当(～2001年3月)
- 2001年4月 関東学院大学経済学部講師(兼任)・演習担当(～同年7月)
- 2005年9月 東北学院大学文学部(兼任)・集中講義・「ホロコーストの論理と力学」
- 2007年6月 ベルリン・フンボルト大学特別研究領域短期研究員・講義「日本における
新自由主義の潮流と大学改革」

学会活動

- 1968年6月 ドイツ資本主義研究会 ADWG 会員(～現在)：2期4年、事務局長
- 1971年10月 土地制度史学会(現、政治経済学経済史学会)会員：1996年11月理事
(～現在)、1996年11月から1期3年間編集委員会副委員長
- 2002年11月 政治経済学・経済史学会・理事、1期3年、編集委員会委員長

- 1977年10月 現代史研究会会員(～現在)：1997年8月から98年7月まで委員長
- 1978年10月 ドイツ現代史学会会員(～現在)：第20回大会(97年7月24・25日、
於・横浜市立大学)事務局長
- 1995年8月 歴史学研究会会員(～現在)
- 1996年4月 経営史学会会員(～現在)
- 2000年10月 第18期日本学術会議・経済史研究連絡委員会委員(～2003年9月)
- 2003年10月 第19期日本学術会議・経済史研究連絡委員会委員(～2006年10月)
- 2004年3月 大学評価学会・理事・運営委員、3期6年(～2010年3月)

【教育業績】

担当課目一覧(大学別、年月・期間、場所等の詳細は職歴・研究教育歴に付記)。

- (1) 立正大学で、1974年から1996年までに、経済学部・大学院経済研究科、大学院文学研究科で、以下のような講義・演習を担当。
 - 西洋資本主義発達史
 - 西洋経済史
 - 一般経済史
 - 西洋史
- (2) 横浜市立大学で、1996年から現在まで。
 - 商学部・大学院経済学研究科において、
 - 経済史、
 - 西洋経済史
 - ドイツ経済史
 - 国際総合科学部・国際総合科学研究科国際文化専攻(2005年以降)において
 - ヨーロッパ社会
 - ナショナリズム論
 - 教養ゼミA
 - 特殊講義(英字新聞講読)
 - ヨーロッパ社会論(大学院講義・演習)
 - 大学院都市社会文化研究科(2009年以降)において、
 - 欧米社会論
- (3) 横浜国立大学、東京都立大学、日本女子大学、跡見学園女子大学などの諸学部、および東京大学(大学院)で兼任(非常勤)として担当した諸科目、
 - 経済史
 - 西洋経済史
 - 現代史
 - 経済政策特論
- (4) 立正大学で学部運営委員、入試委員、入試委員会副委員長、世界史出題委員など各種委員歴任。横浜市立大学でも、商学部時代、国際総合科学部時代を通じて、入試委員、世界史出題委員など各種委員を歴任。

【研究業績】

I. 著書

【単著】

- ① 『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』同文館、1994年(博士論文)。
- ② 『独ソ戦とホロコースト』日本経済評論社、2001年(2000年度・科研費出版助成・全国図書館協議会選定図書)。
- ③ 『ホロコーストの力学—独ソ戦・世界大戦・総力戦の弁証法—』青木書店、2003年。

【編著】

永岑三千輝・廣田功編『ヨーロッパ統合の社会史-背景・論理・展望-』日本経済評論社、2004年(1999-2001年度科研費(A) 国際学術調査「ヨーロッパ統合の社会史の比較研究」の成果報告:2003年度・科研費助成出版)。ページ.1-16, 65-102, およびケルブレ担当の第1章の翻訳。共著者は、編者二人のほか、ケルブレ(ベルリン・フンボルト大学教授)、小野塚知二(東京大学教授)、バンジャマン・コリア(パリ第13大学教授)、アルベルト・メルレル(イタリア、サッサリ大学教授)、雨宮昭彦(千葉大学教授)、新原道信(横浜市立大学助教授)。

【共著①】

井上茂子・木畑和子・芝健介・永岑三千輝・矢野久『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』同文館、1989年。担当は、序章 ドイツ第三帝国史研究の現在:政治と経済、国家と経済ページ.19-31. 第3章 第三帝国のフランス占領とドイツ経済界ページ.151-198.

【共著②(担当章の執筆)】

- ①遠藤輝明編『国家と経済—フランス・ディリジズムの研究—』東京大学出版会、1982年(1981年度・科研費出版助成)。(共著者:権上康男、廣田明、廣田功、大森弘喜、原輝史、秋元英一、永岑三千輝)
担当章「第三帝国における国家と経済—ヒトラーの思想構造にそくして—」ページ.385-437.
- ②立正大学西洋史研究室『政治と思想—村瀬興雄先生古稀記念西洋史研究論叢』1983年
担当章「第三帝国における国家と経済—化学工業独占体イ・ゲ・ファルベン社とオーストリア併合」ページ.85-119.
- ② 廣田功・奥田央・大沢真理編『転換期における資本・労働・国家—両大戦間の比較史的研究—』東京大学出版会、1988年(1987年度科研費出版助成)。
担当章「第三帝国チェコスロヴァキア共和国解体とイ・ゲ・ファルベン」ページ.123-151.
- ④遠藤輝明編『地域と国家—フランス・レジヨナリズムの研究—』日本経済評論社、1992年(1991年度、科研費出版助成)。
担当章「地域・民族・国家-両大戦間のズデーデン問題-」ページ.273-319.
- ⑤社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣、1992年。
廣田功との共著:ヨーロッパの戦後改革—フランスとドイツ、そのうちドイツを分担。ページ.328-334.

- ⑥西川正雄編『自国史を越えた歴史教育』三省堂、1992年。
担当章「ドイツ＝ポーランドの対話」(二)ページ.192-207
- ⑦権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成－自由と組織化』東京大学出版会、1996年(1995年度、科研費出版助成)。
担当章「ナチ体制下の戦後構想とドイツ資本主義の組織化」ページ.313－342
- ⑧廣田功・森建資編『戦後再建期のヨーロッパ経済－復興から統合へー』日本経済評論社、1998年(1997年度、科研費出版助成)。
担当章「ドイツ戦後再建の人的社会的基礎」ページ.55-95.
- ⑨Wolfgang Klenner/Hisashi Watanabe(Hrsg.), *Globalization and Regional Dynamics. East Asia and The European Union from the Japanese and the German Perspective*, Heidelberg 2002.
担当：The Strategies of the Japanese Government and Trade Associations, pp. 43-49.

【翻訳書（共訳・監訳・単独訳）】

- ①ハルトムート・ケルブレ著・雨宮昭彦・金子邦子・永岑三千輝・古内博行訳『ひとつのヨーロッパへの道－その社会史的考察－』日本経済評論社、1997年(第2刷, 1998年)
- ②ウォルター・ラカー編・井上茂子・木畑和子・芝健介・長田浩彰・永岑三千輝・原田一美・望田幸男訳『ホロコースト大事典』柏書房、2003年。
- ③ハルトムート・ケルブレ著・永岑三千輝監訳・金子公彦・瀧川貴利・赤松康史訳『ヨーロッパ社会史－1945年から現在まで－』日本経済評論社、2010年3月刊(ドイツ外務省ゲーテ・インスティテュート、横浜学術教育財団、およびベルリン・フンボルト大学特別研究領域の出版助成。日本図書館協会・選定図書2010年4月28日付)。
- ④ハルトムート・ケルブレ「1945年以降の独仏の社会関係」(永岑訳) 廣田功編『欧州統合の半世紀と東アジア共同体』日本経済評論社、2009年、15-36ページ。
- ⑤ウルリッヒ・ヘルベルト「「ホロコースト研究の歴史と現在」『横浜市立大学論叢』第53巻、社会科学系列、第1号、2002年127-164ページ。

【教科書（担当章・節の執筆）】

- ①松田智雄編『西洋経済史』青林書院新社、1982年(項目執筆「ナチス経済」)。(共著者は、遠藤輝明、関口尚志、弓削達、住谷一彦、鈴木圭介、楠井敏朗、柳澤治、廣田功、秋元英一、梅津順一ほか)。
- ②歴史科学者協議会編『卒業論文を書く－テーマ設定と資料の扱い－』山川出版社、1997年(2004年に第三刷)(担当:「ヒトラー・ナチスと第三帝国の権力」)
- ③経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣、2005年(ナチス期の戦後構想から「経済の奇跡」)
- ④上杉忍・山根徹也編『歴史から今を知る－大学生のための世界史講義－』山川出版社、2010年9月刊行。
担当章：第7章 第一次世界大戦とロシア革命、
および、第8章 ファシズムと第二次世界大戦

II. 学術論文(【査読付き】はその旨付記)(特記しない限り、すべて単著)

1. [1973][1974]「ナチスの農村進出—シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン州について—」(1)、(2)、『経済学季報(立正大学、以下同)』23-2, 27-41 ページ, 23-3, 1-39 ページ.
2. [1978]「ニュルンベルク裁判文書と若干のアルヒーフ史料について」(共著者・木畑和子) 現代史研究会『現代史研究』29, 43-70 ページ. **【査読付き】**
3. [1985]『西ドイツ=ポーランド教科書勧告』と西ドイツの歴史教育」(上)(中)(下) 教育科学研究会『教育』No. 449-451, 分担執筆(中)、共同執筆・西川正雄、伊集院立、他。**【査読付き】**
4. [1985]「イ・ゲ・ファルベン社とナチ体制—私的独占体と国家との諸関係—」『経済学季報』34-2・3, 27-102 ページ.
5. [1986]「第三帝国のポーランド占領政策とイ・ゲ・ファルベン」『経済学季報』35-1, 95-132 ページ.
6. [1987]「第三帝国支配下のズデーテンラントにおける経済的社会的状態」『経済学季報』36-4, 123-137 ページ.
7. [1988]「ドイツ第三帝国とイ・ゲ・ファルベン—企業史に関する最近の研究の批判的検討—」『経済学季報』37-4, 75-120 ページ.
8. [1988]「電撃戦から総力戦への転換期における四ヶ年計画 —ドイツ戦争経済の一局—」(一)(二)『経済学季報』38-2, 51-93 ページ, 38-3, 87-151 ページ.
9. [1989]「ズデーデン問題の発生と展開—民族問題と地域・国家、権力政治との関連で—」『経済学季報』39-3, 1-60 ページ.
10. [1990]「民族問題と地域・国家—国際的権力政治とズデーデン問題—」『経済学季報』39-4, 143-166 ページ.
11. [1991]「ドイツ第三帝国のオランダ・ベルギー占領とその軍事経済的利用」『経済学季報』40-4, 29-74 ページ.
12. [1991]「ドイツ第三帝国の占領政策と民衆意識の変遷—オランダ・ベルギー・ルクセンブルクを中心に—」『経済学季報』41-1, 37-110 ページ.
13. [1992]「ドイツ第三帝国のソ連占領政策」(一)(二)(三)『経済学季報』41-3・4, 3-106 ページ, 42-1, 33-103 ページ, 42-2, 1-104 ページ.
14. [1992]「ドイツにおける戦後改革—その主体的要因を手がかりに—」『土地制度史学』135, 35-47 ページ. **【査読付き】**
15. [1993]「ゲシュタポ報告にみる国家敵対的事件の諸相—1941 年夏—」『経済学季報』43-1, 1-106 ページ.
16. [1993]「独ソ戦勃発初期ライヒと占領地の「平穩」と「不穩」の重層構造」『経済学季報』43-2, 1-73 ページ, 43-3, 1-73 ページ.
17. [1993]『冬の危機』総力戦への転換と占領地の治安秩序」(1)(2)『経済学季報』43-4, 1-51 ページ, 44-1, 1-70 ページ.
18. [1994]「スターリングラード敗北と総督府の全体状況」『経済学季報』44-2, 1-85 ページ.
19. [1995]『七月二〇日』事件前夜のドイツ人民衆の動向—民衆の「麻痺」の構造の理解のために」『経済学季報』44-3・4, 1-56 ページ.
20. [1995]「ドイツ第三帝国の戦争政策の展開とホロコースト」日本の戦争責任資料セ

- ンター『戦争責任研究』8, 17-21 ページ。【査読付き】
21. [1995]「疎開と逃避行、追放による難民化—敗戦前後の東部地域のドイツ人民衆—」『経済学季報』45-1, 1-64 ページ。
 22. [1995]「アウシュヴィッツの真実とホロコースト研究の現段階—『アウシュヴィッツの嘘』の虚妄性」現代史研究会『現代史研究』41, 1-22 ページ。【査読付き】
 23. [1995]「ホロコーストとアウシュヴィッツの真実—第三帝国の戦争政策の展開とユダヤ人大量虐殺—」『経済学季報』45-2, 1-58 ページ。
 24. [1998]「独ソ戦の展開・世界大戦化とホロコーストの力学」『横浜市立大学紀要』社会科学系列・1, 31-123 ページ。
 25. [1998]「ホロコーストのダイナミズム—「絶滅政策」に関する史料批判と史料発掘の意義」日本ドイツ学会『ドイツ研究』26, 20-33【ページ査読付き】
 26. [1999]「ドイツ経済再建の人的社会的基礎」横浜6大学連合学会『学術大会報告』14-24 ページ。
 27. [1999]「ユダヤ人東方移送政策とウッチ・ゲッター問題」『横浜市立大学論叢』49, 社会科学系列・1, 51-100 ページ。
 28. [1999]「ウッチ・ゲッター問題とヘウムノ・ガス自動車『安楽死』作戦」『横浜市立大学論叢』50, 社会科学系列, 1, 1-32 ページ。
 29. [1999]「ドイツ歴史学と現実政治—第三帝国戦時をめぐり最近の論争から—」『歴史評論』591, 2-14 ページ。
 30. [1999]「ドイツ軍事大国化はなぜ実現したのか」『歴史地理教育』598, 14-19 ページ。
 31. [2000]「ヒトラー『絶滅命令』とホロコースト」『土地制度史学』166, 14-19 ページ。【査読付き】
 32. [2000]「独ソ戦の現場とホロコーストの展開」横浜市立大学論叢』50, 社会科学系列, 2・3, 43-90 ページ。
 33. [2000]「繰り返される歴史の歪曲—歴史修正主義」『別冊歴史読本』56。
 34. [2004]「ホロコーストの論理と力学—総力戦敗退過程の弁証法—」『横浜市立大学論叢』55-3, 265-296 ページ。
 35. [2006]「総力戦とプロテクトラートの『ユダヤ人問題』」『横浜市立大学論叢』56-3, 159-206 ページ。
 36. [2006]「東ガリツィアにおけるホロコーストの展開」関東学院大学経済学部『経済系』227, 53-67 ページ。
 37. [2007]「特殊自動車とは何か—移動型ガス室に関する史料紹介—」『横浜市立大学論叢』56-3, 123-142 ページ。
 38. [2007]「アウシュヴィッツへの道—「過去の克服」の世界的到達点の見地から—」(1)『横浜市立大学論叢』58-1・2, 55-95 ページ。
 39. [2008]「アウシュヴィッツへの道—「過去の克服」の世界的到達点の見地から—」(2)『横浜市立大学論叢』58-1・2・3, 223-257 ページ。
 40. [2008]「独ソ戦・世界大戦の展開とホロコースト」『ロシア史研究』82, 17-25 ページ。【査読付き】
 41. [2009]「アウシュヴィッツへの道—「過去の克服」の世界的到達点の見地から—」(3)『横浜市立大学論叢』59, 人文科学系列, 1.2, 201-218 ページ。
 42. [2009]「ナチス・ドイツと原爆開発」『横浜市立大学論叢』60, 人文科学系列, 1, 49-75 ページ。
 43. [2010] „Neoliberale Strömungen in Japan und die Reformen der Universitäten. Das Beispiel der Yokohama City Universität“, 『横浜市立大学論叢』59-1・2・3, 57-82 ページ。
 44. [2010]「世界戦争の時代と『社会主義』の実験—10月革命から—国社会主義体制の成立まで—」『横浜市立大学論叢』60, 人文科学系列, 3, 47-74 ページ。

45. [2010]「ハイゼンベルクと原爆開発」『横浜市立大学論叢』60, 社会科学系列, 2・3, 133-148 ページ.
46. [2010]「ハイゼンベルク・ハルナックハウス演説の歴史的意味—ホロコーストの力学との関連で—」『横浜市立大学論叢』61-3, 99-ページ. (現在、再校提出・責了段階)

Ⅲ. 書評

1. [1996]「栗原優『第二次世界大戦の勃発』名古屋大学出版会、1994」『土地制度史学』150, 57-58 ページ.
2. [1996]「星乃治彦『社会主義国家における民衆の歴史』法律文化社、1994」『土地制度史学』151, 59-60 ページ.
3. [1996]「芝健介『武装 SS-もう一つの暴力装置』講談社、1995」『歴史学研究』687, 56-58 ページ.
4. [1997]「歴史学研究会編『講座世界史 6 必死の代案』東京大学出版会、1995」『歴史学研究』693, 63-64 ページ.
5. [1997]「豊永泰子『ドイツ農村におけるナチズムへの道』ミネルヴァ書房、1994」『社会経済史学』62-5, 139-142 ページ.
6. [1997]「工藤章『イ・ゲ・ファルベンの対日戦略』東京大学出版会、1995」『経営史学』32-2, 84-86 ページ.
7. [1998]「大島通義『総力戦時代のドイツ再軍備』同文館、1996」『社会経済史学』64-2, 122-124 ページ.
8. [1999]「栗原優『ナチズムのユダヤ人絶滅政策』ミネルヴァ書房、1997」『土地制度史学』163, 70-72 ページ.
9. [1999]「田村栄子『若き教養市民層とナチズム』名古屋大学出版会、1996」『社会経済史学』65-2, 110-112 ページ.
10. [2001]「アンソニー・リード/デーヴィッド・フィッシャー著根岸隆夫訳『ヒトラーとスターリン』上(死の抱擁), 下(バルバロッサ作戦)、みすず書房、2001」『図書新聞』2551.
11. [2003]「アラン・ブロック著『対比列伝 ヒトラーとスターリン』(全3巻)、草思社、2003」『図書新聞』2654.
12. [2006]「矢野久『ナチス・ドイツの外国人—強制労働の社会史』現代書館、2004」『経営史学』41-1, 75-77 ページ.
13. [2007]「フランク=ロタール・クロル著小野清美・原田一美訳『ナチズムの歴史思想』柏書房、2006」『社会経済史学』73-4, 106 ページ.
14. [2010]「西川正雄著(伊集院立・小沢弘明・日暮美奈子編)『歴史学の醍醐味』日本経済評論社、2010」『社会経済史学』76- ページ(ゲラ待機段階)

IV.インタビュー記事、その他

1. [1998]「先生教えて：アウシュヴィッツで虐殺された数は？」『歴史地理教育』574, 94-95 ページ.
2. [1998]「ホロコースト・ガス室をめぐる論争を契機に-歴史研究におけるインターネット利用-」『歴史評論』578(特集号：歴史研究におけるインターネット利用), 45-46 ページ.
3. [2000]「ドイツにおける『普通の人びと』の戦争犯罪論争」日本経済評論社『評論』121, 1-3 ページ.
4. [2001]「インタビュー・永岑三千輝氏に聞く『独ソ戦とホロコースト』」『図書新聞』2527.(インタビューアー：米田綱路編集長)
5. [2003]「インタビュー記事『独ソ戦とホロコースト研究』」『歴史地理教育』651 (【特集・ナチスの時代】), 14-21 ページ. (インタビューアー：菊地・村松)
6. [2004]「インタビュー記事『ホロコーストの力学』・『歴史の実証の力』『解きあかされるホロコーストとの論理と力学』」『図書新聞』2662.(インタビューアー：米田綱路編集長)
7. [2008]「全大協インタビュー：専門研究について」『全大協』232, p.4.

V.学会報告

1. [1998]「ドイツ経済再建の人的社会的基礎」横浜6大学連合学会(1998年12月5日)
2. [1999] „Internationalisierung des Yens “ und die „New Miyazawa Initiative“-Strategie der japanischen Regierung und Wirtschaftsverbände-, Deutsch-Japanische Wirtschafts- und Sozialtagung. Bochum, BRD, 19.-21. 1999.
3. [2000]「シンポジウム：ホロコースト研究をめぐって」現代史研究会第384回例会 (於：青山学院大学、7月15日)
4. [2007] „Neoliberale Strömungen in Japan und die Reformen der Universitäten. Das Beispiel der Yokohama City Universität“, Humboldt Universität zu Berlin, 28. 6. 2007.
5. [2007]「独ソ戦・世界大戦の展開とホロコースト」ロシア史研究会、2007年度大会 (於：早稲田大学、11月10日)
6. [2009]「ホロコーストの力学と原爆開発」社会経済史学会、2009年度大会 (於：東洋大学、9月27日)

【国際学術セミナー企画・外国研究者招聘・同時通訳等】

2001年2月28日 ウルリッヒ・ヘルベルト (フライブルク大学教授)「ホロコースト研究の歴史と現在」

2002年4月25日 ロベール・フランク (ソフボンヌ大学・パリ第一大学教授)「ヨーロ

「ヨーロッパ統合と仏独和会の社会史」

- 2003年5月15日 ハルトムート・ケルブレ（ベルリン・フンボルト大学教授）「ヨーロッパの社会史・研究史概観」
- 2005年5月10日 ハルトムート・ケルブレ（ベルリン・フンボルト大学教授）「第二次世界大戦後のヨーロッパの家族社会史・ヨーロッパ統合の社会史の一面」
- 2008年4月17日 ハルトムート・ケルブレ（ベルリン・フンボルト大学教授）「戦後ドイツの教育の社会史と大学改革ーヨーロッパ的比較の視点でー」
- 2008年12月11日 ボグダン・ムルジェスク（ルーマニア・ブカレスト大学教授）「ルーマニアのEU加盟の歴史的意義」

【地域貢献・市民講座】

- 1999年9月8日 横浜市立大学リカレント講座（於・アーバンカレッジ・上大岡）
「ホロコーストの力学ー戦争の世紀20世紀をふりかえってー」
- 2000年10月21・22日 第17回よこはま21世紀フォーラム「ヨーロッパ統合と日本」
（於・横浜シンポジア）企画委員・第2セッション「ヨーロッパ統合史と21世紀のアジア」運営
- 2005年11月2日 東京都渋谷区市民講座「ドイツの歴史ー近世から現代までー」（於・千駄ヶ谷社会教育館）「第3講 ユダヤ人迫害と第二次世界大戦」
- 2006年1月26日 横浜市立大学リカレント講座（於・アーバンカレッジ・上大岡）
「ホロコーストの論理と力学」
- 2006年5月～6月 横浜市立大学リカレント講座（於・みなとみらいランドマークタワー13階、横浜市立大学エクステンションセンター）「アウシュヴィッツへの道」
企画・担当
1. 5月17日 ヒトラー・ナチズムの世界観と思想構造
ーヒトラー、ヒムラー、ハイドリヒのものの考え方は？ー
 2. 5月24日 独ソ戦の展開と「ユダヤ人問題」
ー治安警察・保安部の秘密報告書はなにを語るか？ー
 3. 5月31日 世界戦争への突入とヴァンゼー会議
ー議事録から浮かび上がることは何か？ー
 4. 6月7日 戦後ドイツにおける「過去の克服」
ー信頼されるドイツの構築ー石田勇治氏（東京大学教授）
- 2006年11月14日 高校講座（於・神奈川県立追浜高校）「学問紹介・史学ーホロコースト研究を素材にしてー」
- 2006年12月5日 エクステンション講座「世界の戦争と民衆」（於・みなとみらいラン

ドマークタワー 13 階・横浜市立大学エクステンションセンター)「第三回 ヒトラーの戦争とヨーロッパの民衆」

2007 年 5 月～6 月 エクステンション講座(於・みなとみらいランドマークタワー13 階・横浜市立大学エクステンションセンター)「ヨーロッパ統合の到達点は何を意味するかー極端の世紀 20 世紀を振り返ってー」企画・運営

1. 5 月 9 日 西川正雄 (東京大学名誉教授)
2. 5 月 16 日 小野塚知二 (東京大学大学院経済学研究科教授)
3. 5 月 23 日 小島 健 (立正大学大学院経済学研究科教授)
4. 5 月 30 日 木畑洋一 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
5. 6 月 6 日 廣田 功・新潟大学教授(新潟大学教授・東京大学名誉教授)

2010 年 5 月～6 月 エクステンション講座 (於・横浜市立大学八景キャンパス・エクステンションセンター)「2つの世界大戦とヨーロッパ統合」企画・担当

1. 5 月 12 日 第一次世界大戦とロシア革命
2. 5 月 19 日 ファシズムと第二次世界大戦
3. 5 月 26 日 総力戦とホロコースト
4. 6 月 2 日 世界大戦の克服とヨーロッパ統合 (横浜市立大学共同研究員、瀧川貴利・赤松廉史との共同講義)